

いなべ市総合計画審議会（進捗管理） 会議録

会議名	いなべ市総合計画審議会（進捗管理）
開催日時	平成28年8月9日（火）14:00～15:30
開催場所	いなべ市役所員弁庁舎東館2階第7会議室
出席者	<p>【委員】7名（欠席：中澤政直） 丸山康人、小澤和茂、門脇よしゑ、伊藤久子、川瀬正幸、横井健二、川添将美</p> <p>【事務局等】15名 いなべ市：副市長、総務部長、企画部長、都市整備部長、市民部長、福祉部長、健康こども部長、農林商工部長、建設部長、水道部長、教育部長、政策課長及び政策課職員3名</p> <p>【オブザーバー】2名 ジャパンインターナショナル総合研究所</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 副市長あいさつ</li> <li>3. 委員紹介</li> <li>4. 会長あいさつ</li> <li>5. 説明及び審議事項 いなべ市総合戦略事業取組経過報告について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料</span></li> <li>6. 意見交換</li> <li>7. 閉会</li> </ol>
配布資料	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料</span> 平成27年度いなべ市戦略事業取組経過報告書 （地方創生推進交付金事業取組経過報告書）
公開、非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	1人
議 事 概 要	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会 委嘱状交付</li> <li>2. 副市長あいさつ</li> <li>3. 委員紹介 委員及び事務局等紹介</li> <li>4. 会長あいさつ</li> <li>5. 説明及び審議事項 いなべ市総合戦略事業取組経過報告について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料</span></li> </ol> <p>【説明者】 資料「平成27年度いなべ市戦略事業取組経過報告書」に基づき説明</p>	

【会長】

事業数だけを見ると、「1しごと創生プロジェクト」と「4くらい創生プロジェクト」は75%くらいと達成率が高いものの、「2であい創生プロジェクト」と「3みらい創生プロジェクト」は半分程度しか達成できていないと読み取れると思う。

また、15歳～49歳の女性の数を増やすために、どのような取り組みをする予定か。

【事務局】

子育て、教育などの各種事業を進めることにより、産みやすい、育てやすい環境づくりの結果、15歳～49歳の女性を増やしていこうと考えている旨を説明。

【会長】

産みやすい、育てやすい環境をつくることによって女性がいなべ市から離れない、ないしは流入してもらうことを狙いとしている。単年度だけの成果であるが、逆に実績値よりも下回っている。

【委員】

地方創生というのは、人口減少に歯止めをかけるのが目的なので、この活動によって人口がどう変化してきたのか見えるとわかりやすい。15～49歳の女性だけでなく、子どもや高齢者も含めて本市の人口構成がどのように変化しているのか、まとめていただけるとわかりやすい。

【事務局】

15歳～49歳の女性いなべ市の人口に最も大きく影響を与えており、同時に合計特殊出生率の母数となる人口であるということで、みらい創生プロジェクトの2つの指標のうちの1つに15～49歳の女性の数字を挙げた旨と説明。

また、総合戦略は平成52年の4万人を目標に掲げ、事業を推進しているおり、この4万人の目標は、子どもや高齢者までの人口の合計となっている旨を説明。

【会長】

人口ビジョンとしては全体を見ようと議論してきたが、国においては15歳～49歳の女性の増減が全体の人口に大きく影響するという報告もあり、地方創生のポイントとしてそこを重点的に見ていくことが効果的であるということをおっしゃっているのだと思う。15～49歳の女性の数が減っていくと、高齢者の数が増えても、全体的に人口増加にはつながらない。そのため若い女性の世代にたくさん来ていただき、子育て環境をよくし、自然増を狙っていこうということをご理解いただきたい。

資料4頁・5頁については、何か意見はあるか。

【会長】

商工会への加入数が下がってしまっている。人口減少や高齢化が進んでいく中で、数値目標として徐々に拡大していこうと狙っていこうというのは、相当厳しいと思う。担当者として、増えていく見込みがあるのか。

【説明者】

商売をやっているけど商工会に入っていない人もいますので、そのような方をサポートしていきたい旨を説明。また、後継者がいないところは亡くなると廃業になってしまうなど、全国的にも、会員を増やすことは厳しい部分もあるが、そういった部分も力を入れて商工会を中心に支援している旨を説明。

【会長】

インターチェンジなどができて大型店舗ができると、中小の店舗では後継者不足で辞めるところも多いというのが現実だと思う。それでも、少しでも維持できるように努力していくことが目

標だと思う。現状維持でも大変な中、高い数値目標を掲げるといのは相当厳しいと思う。

起業・創業については1年目ということもあり、仕方がない数値であると思う。これからぜひ積極的に進めていただきたいと思う。これからインターなどもできることも含めて、これからの展開を見ていきたい。

金融分野選出の委員として、いなべの市場についての可能性などについてご意見はないか。

【委員】

人口は横ばい・若干減少傾向という中で、事業所数は逆に増えている。業種の偏りはあるか。

【説明者】

製造業関係が多く、商工会の会員は工業系が多い旨を説明。

【委員】

そうすると、従業員の雇用等が見込まれるので、他の都市から来るとそれだけ住宅も必要になるということで、活性化につながるのではないか。

愛知県で仕事をしていたときに、他市町村において、いかに起業を促し、それによる波及効果を得るかということを中心に、市内の業種別構成比を分析し、有効性を見極める、という会議に出席していた。

【会長】

デンソー等に関連した中小企業が多いか。

【説明者】

多い旨を説明。

【会長】

関連の中で、地元企業等はできてきている。そこでどうやってさらに維持拡大をしていくか。また新たに重層的なものにしていくためにも、新たな創業が必要である。

【委員】

以前、阿下喜は賑わっていたのに、なぜお店が少なくなったのだろうか。昔は商工会が盆踊りなど企画されて、とても賑わっていた。

【委員】

農業の高齢化も進んでおり、もう20年もするといなくなってしまうのではないか。「安いから大企業に買いに行く」という考えが蔓延している。私は家族に「少々高くても、地元の店に行くように。」と言っている。仕事を辞めて、地域を大切にする意識が芽生えてきたが、全体的に、いなべ市を大切にしようという気持ちが根本にないと、安い方、安い方へ行ってしまわないか。農業をしている方で、いなべ市の地域の良さを大事にしながらつくっている方もいらっしゃる。一方で、獣害被害もたくさんあり、そういったことができない状況もある。

【会長】

地元を大切にする気持ちをどう育むとかということも大事な課題である。商店経営や阿下喜も同様に後継者がいない中でやっている状況だと思う。

市としては、阿下喜の活性化のためのプロジェクトをしているのではないか。

【事務局】

唯一残っている商店街の阿下喜活性化には取り組んでいる旨を説明。

新しいことをやっていく中で企業と結びつきができないかという一環で、新庁舎建設予定地周辺で「にぎわいの森事業」を展開したいと考えており、多種多様な業態の店舗を総合的に配置し、

そこで評価を得ていくということで進めている旨を説明。

地域との関わりを大事にしながら進めていかないといけないということから、いかにいなべのいい農産物を店舗と協働しながら提供し、農業振興、商業振興につなげていかないと考えていることや、人口減少の一途をたどっている中、いなべ市に都市部のように集客できるものがあるかということ、難しい部分も多いが、山々の自然や、農・食も潜在的にいいものがあり、そういったものを引き出し、活性化させ地域の人が満足して定着すれば、必然的に市外からの交流に繋がり、ゆくゆくは定住につながるのではないかと考えから。一つの取り組みとして「にぎわいの森事業」を進めている旨を説明。

【会長】

そういったプロジェクトがあり、去年から取り組んでいるというのは聞いている。今後、その成果が出てくることを期待する。名古屋市からも人を呼んで検討会・研究会なども始めていると聞いている。

【事務局】

名古屋市の商業施設でいなべの食材をPRし、いなべのイメージをつくってもらい、そこからいなべに人を呼び込めないかという事業を行なっている旨を説明。

また、創業相談件数2件については、若い方を中心とした店舗の開業や、開業予定があるので、今の高齢化の中、このような支援が大事であると考えている旨を説明。

更に、地域の方にも賛同いただければ、より効果も出てくると考えている旨を説明。

【会長】

名古屋市などの若者とつながるということも、一つのポイントである。地域との連携、販路拡大といった取り組みを推進することで、最終的に地域の活性化を担保していく、維持していくことは大事なことである。

「であい創生プロジェクト」についてはいかがか。

【会長】

空き家対策について、市としては現況、対策について昨年まとめたのか。

【説明者】

調査及び策定はこれからの予定であることや、今までどおり、空き家バンクの登録はホームページで行っていること、広報誌などで空き家バンクへの登録のPRを実施している旨を説明。

不動産事業者とも連携しているが、件数は少ない状況であり、今後、空き家等の調査を実施する際は、市からも積極的に働きかけなければならないと考えている旨を説明。

【会長】

国の施策として全国自治体に対して、調査の指示が出ているはずだ。

現況調査をし、必要に応じては活性化のために空き家を活用していく、老朽化している空き家は調査をし、放置しないように指導する。法律に基づく空き家対策ということなので、ぜひしっかりやってもらいたい。今年、来年くらいで完了予定か。

【説明者】

今年以降始めて、平成29年度予定と考えているが、現在は計画段階である旨を説明。

【会長】

空き家バンクだけではなく、もう少しトータルで考える必要がある。空き家を活かした出会いプロジェクトがある一方で、高齢化した親が亡くなった後誰も住まない老朽化した空き家が増えてくる。

【説明者】

危険な状況については、管理を促す文書を出していく取り組みは進めていく旨を説明。

【会長】

農業公園の集客数については、梅まつりが雨でよくなかった。ぼたん6月だったか。

【説明者】

ぼたんについては、温暖化で咲く時期が早まっており、まつりの時期と合わなかった旨を説明。

【委員】

天候で左右されるものを目標に掲げるのは、難しいかもしれない。行政が考えているにぎわいの森の集客に絞った方がいいのではないか。家でもぼたんは咲いたらあつという間に散ってしまうので、集客数をここに載せるのは、なかなか難しいことだと思う。

【委員】

ぼたんもまつりを咲く時期に変えていかないといけない。  
また、咲かせる、咲かせないのコントロールができるのか。

【説明者】

咲く時期を見ながら変えてはいるものの、あまり咲かしてしまうと翌年に咲かなくなり、コントロールが難しい旨を説明。  
また、早咲きと遅咲きのものを植えていることや、あまり長期間咲かせておくとよくない品種のぼたんもある旨を説明。

【会長】

これは天候等が回復すれば、上がってくる可能性もある。

【委員】

ぼたんと一緒に、細い桜が咲いていたと思うが。

【説明者】

ボタンザクラである旨を説明。

【委員】

何かだけでも、よかったなあと思えるように、多種の花を上手に組み合わせることもできればいい。

【説明者】

よりよく咲くように整備管理をしている旨を説明。

【会長】

交流人口をアップしていこうということが一つの狙いだとすれば、いなべの場合は、ぼたんや梅がある。天候などについては、対応できる範囲で対応をお願いします。  
阿下喜温泉は若干集客が伸びている。

【委員】

この中に、ツアー・オブ・ジャパンの集客は、入っていないのか。これからも実施するのであれば、もっとPRをしてもらいたい。それに合わせて、タイアップで何か行事をするなどできないか。

【委員】

知らないうちに終わってしまうので、PRがあるとよい。

【会長】

いなべブランドとしての広報や、FMの活用・連携などでさらに進めていただきたい。

数年前、滋賀へのトンネルが開通したが、長島の方に行ってしまうので、交流が進んでいない。上手に広報して、滋賀・関西方面から来てもらえるようにしていただきたい。

【委員】

石榑トンネルのことが出たが、国道421をマラソン42.195kmにかけてマラソンなどのイベントを開催してはどうか。

【事務局】

東近江市との連携も考えていかななくてはいけないと考えている旨を説明。

【会長】

いろいろな人にいなべ市に来てもらおうと計画している。順調にしているものもあれば、季節の問題、空き家バンクは精度を上げていくなど努力していただき、来年以降もよろしくお願ひしたい。

次の「みらい創生プロジェクト」に移る。

【会長】

いなべ市の赤ちゃん訪問は結構有名で、全国でも先駆的な取り組みですが、それが100%達成しなかったのは、個別の事情があったのか。

【委員】

最近、長期の里帰りをする人が増えおり、年度で区切ると、3月訪問対象でも実際に訪問したのが4月になり、年度実績から外れることから、数値が下がっているが、訪問拒否等で数値が下がっている訳ではない旨を説明。

【会長】

こういった努力はこれまでもしてきたので、今後も継続してやっていただきたい。99%なら問題ないと思う。

一方、学力の向上という点で、アンケートによる満足度が上がらなかったということのようだ。QIについて、再度説明いただきたい。

【説明者】

満足度調査といって、子ども達が学校、自分達のクラス、勉強に対してどれだけ満足しているかという調査であって、全国平均でいくと、小学校の場合、満足度が40%、中学校が37%となっており、いなべ市では57%とかなり高いが、そこで高止まりしている旨を説明。

満足度が高いことは、自己肯定感が高いことにもなるので良いことだが、これを学校運営にどう活かしていくかということが、一つの課題になっている旨を説明。

【会長】

「国語が好き」という子どもは、全国平均でどれくらいか。この53%は、全国平均と比べて高いのか、低いのか。

【説明者】

「好きではない」ということは、それだけ成績が悪いということにつながると考えられる旨を説明。

いなべ市の子ども達は国語に関して全国平均と比べると若干低く、算数と理科に関しては、全国平均より若干高い旨を説明。

国語だけが全国平均を下回っているので、国語を何とか克服するために、これをKPIに挙げて、計画を策定して学力を上げる取り組みを進めている旨を説明。

【委員】

これは国語だけではなく、他の教科にも通じることだが、文章の読解力の弱さは以前から課題である。

【説明者】

特に国語の読解力、文章を読んでその意味を理解するところが弱いので、読書を推進している旨を説明。また、員弁図書館を員弁東小学校に移し、図書館の職員が常駐させたところ、員弁東小学校に関しては、読書が好きな子どもが飛躍的に増加し、国語の学力は上がった旨を説明。しかし、全体的に国語の学力を上げる方法は、まだ確立されていない旨を説明。

【会長】

私も教育現場にいるので感じることだが、まず、親の世代が新聞をとっていなかったりして、活字に触れる機会が少ない。例えば、子どもに対して読み聞かせをさせる家庭も少なくなっている。本に触れる機会が非常に少なくなっている。ネットで必要な情報を得るということもあり、かなり厳しい状況にはある。ただ、いなべ市の教育担当としては、この件について、いろいろなプログラムをつくり、是非向上に向けて頑張ってもらいたい。来年以降、この数値が上がることを期待する。

療育関係について、再度説明願いたい。

【説明者】

実際、数値は昨年より伸びているものの、目標値には届かなかったが、子どもの数の減少に対して、利用率が横ばい若しくは少し増加していることから、特に大きな原因はないと考えている旨を説明。

また、現在、チャイルドサポートという形で、保育現場、教育現場、母子保健でさまざまな相談体制を整備しており、いまは内容を絞り込んで、集約していく時期に入っている旨を説明。

更に、学校の体育教員で心理士の資格のある者を新たに配置し、就学前相談を進めているので、平成28年度は目標の達成見込みである旨を説明。

【会長】

相談件数が増えたからよい、ということではない。むしろ、件数が少ないほうが場合によってはいい時もある。中身の質の問題が問われる場合もある。

【説明者】

ワンストップで対応できるようにしており、相談を受けた後に、その後どう対応するかの段階になる旨を説明。

健康推進課で行っている心理士の相談は、その場に保育士、保健師、県立あけぼの学園のアドバイザーも入り、発達検査・分析し、その後、保育園・学校でどう取り組むかを一つの相談としている旨を説明。また、そうした内容充実に取り組むようにしている旨を説明。

【会長】

次回もこれで一つの基準としてはいいかもしれないが、件数よりも質の部分がどのように変化してきたかを説明してもらった方がいいと思う。次回から、質の問題として説明できるようにしておいてほしい。

【委員】

就学前の子どもについて、以前はあけぼの学園を紹介していたと思うが、4・5月の新聞に、あけぼの学園がいっぱいになったので、朝日町のあさひ園が独自に専門職員を配置し、障害のある子どもに対応するということが載っていた。言語に障害がある子どもが訓練するところがなかなかない。相談件数の増減よりも、そういった子ども達を市としてどのように受け入れていくのかを知りたい。

【説明者】

いなべ市の言語聴覚士は3年～4年前から、言語相談や訓練を実施していることや、母親が医療という現場で受けてほしい希望であれば、かなりの順番待ちがあるものの、言語相談や訓練を受けられる旨を説明。

また、学校においても、言語聴覚士が指導していることや、健康推進課及び発達支援課にも言語聴覚士が在籍し、指導にあたっている旨を説明。

更に、言語相談から入る方が、母親が障害を受け入れやすいので、言語聴覚士は早い段階で関わってもらって、支援している旨を説明。

【会長】

いなべ市ではそういう支援が準備できているということがわかり、よかった。

次に「くらし創生プロジェクト」について4点のポイントが示されている。一つは、シルバー人材センターの登録会員数が762人から743人に減少したこと。この原因は何か。

【説明者】

定年後の再雇用の増加が関係していると考えられる旨を説明。

【会長】

確かに、企業の再雇用制度が充実してきている影響だと思われる。

もう一つは消防団員数と自主防災組織が横ばいであるということ。そして、いなべ総合病院の診療科数が1つ減ったものの、兼務しながら対応していただいているようだが。

【説明者】

医師の移動により診療科数が減ったが、診療内容について何ら支障はない旨を説明。

【会長】

他に何かあるか。

危機管理、防災、消防などいずれも重要な問題であるので、ぜひ着実に進めていただきたい。

6. 意見交換

7. 閉会

その他事項

無し